

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科  
フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011 年度 JASSO 派遣報告書

報告者氏名 下家 大典

23 年度 (入学・編入)

## 1. 研究課題:

タクシー・ブルースを通してみる人の移動と都市-農村関係

## 2. 派遣期間:

平成 23 年 8 月 19 日 ~ 23 年 11 月 15 日 ( 89 日間)

## 3. 今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

今回の調査では、マダガスカルにおける人の移動の実態について、中長距離バスとして全土を網羅するタクシー・ブルースに注目して明らかにすることを試みた。現地調査のうち広域調査では、その利用方法及び運行形態について、全国的に共通のプロセスがある一方で、状況に応じて臨機応変な対応を取ることが分かった。また交通網については、その流動性の高さから正確に把握することが困難だと判明したため、全国的な調査を行うに至らなかった。地方の交通の要所における参与観察・聞き取り調査では、前述の利用方法及び運行形態についてより詳細に理解することができた。また、交通網を定量的に把握することにより、人的移動の実態について示唆を得た。文献調査においては、アンタナナリボ大学の図書館を訪問し大学図書館の会員となり、交通経済学についての文献を得ることができた。また書店では現地でのみ発行された貴重な文献を入手した。その他にも運輸省を訪問し交通政策についての公文書および統計資料を入手することができたことも大きな収穫である。

## 4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について

今回は主にフランス語を用いて調査を行ったが、現地でのフランス語の普及状況を鑑みると、調査協力者が限られてしまうことは避けられない。より正確で詳細な情報を集めるためにマダガスカル語を習得する必要性に迫られる場面に幾度となく遭遇した。まずは日本でテキストを用いて文法学習に取り組み、SNSなども適宜活用しながら学習を行いたい。そのうえで次回の渡航では会話の学習も重点的に行いたい。なお、マダガスカルは旧フランス植民地であることから、植民地時代の文献の多くはフランス語で書かれているため、フランス語の特に読解能力も必要である。これについても日本での勉強を通して向上させたい。

マダガスカルは旧フランス植民地であることから、植民地時代の文献の多くはフランス語に収められている。将来的にはフランスでの文献調査も視野に入れている。

## 5. 本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか？

本プログラムでは、派遣が優先される国が多く用意されていることに加えて、滞在費を現地の裁量で用いることができたため、調査を自身の研究テーマに沿って効率的に行うことができた。この面において優れたプログラムであった。今後もこのようなプログラムがあればぜひ参加したい。

一方で調査によっては、より長期の渡航を必要とする場合や、現地の気候あるいは行事に合わせなければならないことも往々にしてある。そういった外部事情にも対応できるよう、本プログラムによる渡航期間を拡大して年度のまたがる渡航も対象とすることで、研究テーマによる制約を受けずに申し込むことができるのではないかと思います。

署名